

心臓病のおばあちゃん



藤沢中学校2年 蜂須 麻矢

「おばあちゃん、おばあちゃん。」と叫びながらまだ幼い頃の私はいつもおばあちゃんの後を追いかけてまわっていた。料理がとて上手で編み物やぬい物を簡単にこなしてしまっておばあちゃんの姿を見ていて、母に「じやまするんじやないよ。」と叱られても「いいんだよ。」といいながら私に色々な事を教えてくれた。私にとって温かくて、優しい、大好きな人。しかし、私がまだ幼い頃おばあちゃんには不思議な事が沢山あった。その一つは、毎日飲んでいて大量の薬。バケツ程の大きな缶に何日か分の薬がぎっしり入っている。まだ幼い私達姉妹がその缶にさわっただけで、いつも優しいおじいちゃんさえも私達を強く叱った。

夫だよ。」と私に優しく笑って言った。その日の夜、母からおばあちゃんの不思議な理由を知らされた。その理由とはおばあちゃんが心臓病だということ、その病気のせいで言葉がうまく出せないのだということとトイレによく行くのは薬の副作用だということだった。薬を飲まなければ、たおれるかもしれない。そうやっておばあちゃん病気で戦っている。そのことを知った時、私は自分がおばあちゃんに言ってしまった言葉が後悔し、すごく悲しい気持ちでいっぱいだった。私が言った一言でどれだけ傷ついただろう。その時に一言の言葉の重みを知った。きつとおばあちゃん自分がつらくて苦しい思いをしてきたからこそ人に優しく、人の心の痛みや辛さかわかるのだと思う。そんな病気をかかえているおばあちゃんはおもしろいおしゃべりですごく明るく、病気のことで考えていないように見える。おばあちゃんはこの強さを持ってるように私も頑張っていきたい。

# 夢

なかるべからず

「教」より「育」

いもと 元井 淳 さん



新たなフィールド

リーグ加盟クラブは、リーグ戦のほか、スポーツ文化の振興に取り組んでいる。J1で活躍する大宮アルディージャも、県内各地で青少年の育成に力を注いでいる。千葉で教

師をしていた若者は、その活動の一翼を担うため、アルディージャに誘われた。

大宮アルディージャU-12 コーチ兼FC深谷監督 元井淳。彼は、昔の自分に重なる子どもたちの夢のサポーターとして、今のフィールドに飛び込んだ。

## 譲葉の賦

⑩ 憂国の志士

兄勘助の死から十五年、可堂は儒者であるとともに尊皇攘夷の志士としても忙しい日々を過ごしていた。それは時代が尊皇攘夷論に沸いていたこともあったが、嘉永六年（一八五三年）のペリー来航以降、目に見えて迫りくる外国勢力がこうした時代の背景にあったのも事実である。このため、可堂の桃井塾での教授の中心は、尊皇攘夷の徹底と、この目的を達するための方法へと重きが置かれるようになり、可堂の周りには、自然と当時の名士達が集うこととなった。当時、可堂と交流があった者の中には、江戸浅草に居を構える有名な剣士で、土浦藩の剣術師範として招聘された島田虎之助や、筑前黒田の藩士で天眞流柔術の師範である伊藤鹿之助が居たが、中でも幕臣である勝海舟とは、主義主張を超えて馬が合った。それは勝もそうであつたらしく、軍艦操練所頭取となつた後も、江戸へ戻る度に桃井塾へとやって来ては可堂との茶飲み話を楽しんでいた。「先生そいうや、こないだちよいと面白い奴が訪ねてきたんですが

## 桃井可堂伝

ね。何でも土佐の坂本と言う男なんですがいきなり人を奸賊呼ばわりしましてね。桶町千葉道場の重太郎と一緒にあって、この俺をぶつた切るなんて言い出すんですよ。こっちもぶつた切られるのは御免なんので、ちよいと時勢についての俺の考えを話してやっただけですよ。そうしたら、今度は俺の弟子にしてくれと、こう来たんですが、先生どう思いますかね。」勝さん、それは是非弟子にされたほうがよろしいと思いますよ。これからはそんな行動力のある若者が時代を動かして行くんだと思います。」「そうですか、江戸一番の儒者である可堂先生がそう言うんじや考えてみますかね。」この頃になると可堂は、郷里の隣村であった血洗島村の尾高藍香の父勝五郎や、祖父である磯五郎といった人々とも、友好を深め、時事に慷慨し、時の情勢を憂えた。可堂の交流範囲は、この様に幕臣勝海舟から、郷里の尾高一家に至るまで幅広いものであった。憂国の気持ちがあればこそ、可堂は志士を求めた、そしてまた、天下の志士達の桃井可堂に対する期待も、次第に高まって行ったのである。

教えずすぎず

を動かすのが好きだった。父の影響を受け、小学校3年生の時にサッカーを始め、中学、高校に進んでも生活の一部だった。大学生で、プロを意識し始めた矢先、両膝を故障。プロとしての夢が断られた時、先に見えていたのが、両親の職業である「教師」だった。



キャラバン活動として、市内保育園や幼稚園などを巡回し、サッカーを通して体を動かす楽しさを伝えている

教師となつて4年、充実した日々だったが、教師は、限られた時間の中で、一人ひとりを評価しなくてはならないという制約があった。コーチである今は、子どもの個性を生かし、長い目で成長を見守ることができている。子どもを指導する上で、元井は、「自分で考え行動させるためには、あまり教えずすぎないこ

と、「自由な発想には、やりたことを制限しないこと」が重要と力説する。

「子どもたちには、たくさん失敗をしてほしい。自分が失敗してこそ、他人の失敗を理解し、受け入れることができるから」

子どもと追う夢

深 谷に来て早4年。キャラバン活動や、小学生対象のサッカースクールで指導をするほか、中学生のクラブチームであるFC深谷の監督として、汗の引く暇がない。

発足5年目のFC深谷は、地元で活動しているとはいえず、まだ知名度は低い。「地域に愛され、皆さんから応援してもらえらるクラブにしたい」と、元井の瞳に映る夢は輝きに満ちている。

夢七訓

夢なき者は理想なし  
理想なき者は信念なし  
信念なき者は計画なし  
計画なき者は実行なし  
実行なき者は成果なし  
成果なき者は幸福なし  
ゆえに 幸福を求める者は 夢なかるべからず※